Japan Lifeline



…for patient comfort.

2024年3月期
第2四半期決算説明会資料

決算発表　　：2023年11月6日
決算説明会　：2023年11月7日

日本ライフライン株式会社
東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.

本日の内容

Japan Lifeline

01. 第2四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix.　参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ(https://www.jll.co.jp/investors/)からダウンロードできます。

Japan Lifeline

01. 第2四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ(https://www.jll.co.jp/investors/)からダウンロードできます。

2024/3期 連結サマリー（Q2累計）

Japan Lifeline

Q2累計実績 損益ハイライト

売上高		営業利益		四半期純利益	
25,132 百万円[*1]	YoY ▲356 (▲1.4%)	5,472 百万円	YoY +353 (+6.9%)	4,033 百万円	YoY +331 (+9.0%)

✓ 主力事業の自社製品は堅調ながら、Baylis社製品の商流変更やCI事業の縮小により**減収**
✓ 粗利が大幅に改善したことで、販管費の増加を吸収し、営業利益、四半期純利益は**増益**

品目別売上高 ハイライト

リズムディバイス YoY +6.0%

↗ (+) S-ICDが好調

EP/アブレーション YoY ▲6.7%

↘ (－) Baylis社製品の商流変更[*2]
(＋) AF関連製品が伸長

心血管関連 YoY +10.5%

↑ (+) 人工血管関連が堅調
(+) 脳血管関連が好調

消化器 (消化器及びCI事業) YoY ▲37.7%

↓ (－) CI事業[*3]の縮小
(＋) 胆管用チューブステントが伸長

ガイダンス

業績予想を上方修正、配当予想を上方修正 ⇒ 10, 11ページ

*1 金額百万円未満は切捨（以降のスライドも同様）
*2 Boston ScientificがBaylis社を買収したことを受け、2023年3月末でBaylis社との独占販売が終了。4月以降当社はBoston Scientific Japan社に販売支援サービスを提供し、手数料を受領。
*3 冠動脈インターベンション(Coronary Intervention)

2024/3期 連結業績概況（Q2累計）

✓ Baylis関連の個別要因があり減収も、利益率は改善し販管費の増加を吸収。**減収増益**

（単位:百万円）	2024/3期 Q2累計 実績	2024/3期 YoY	2024/3期 %	2023/3期 Q2累計 実績
売上高	25,132	▲356	▲1.4	25,489
売上総利益	15,231	+684	+4.7	14,546
構成比	60.6%			57.1%
販管費	9,758	+331	+3.5	9,426
構成比	38.8%			37.0%
営業利益	5,472	+353	+6.9	5,119
構成比	21.8%			20.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,033	+331	+9.0	3,702
構成比	16.0%			14.5%
自社製品比率	59.1%			53.9%

売上高　YoY ▲1.4% 減収

(+) 既存領域が堅調 (+1,554M)
(+) 新領域(脳血管・消化器)が良好に進捗 (+450M)
(−) Baylis社製品の商流変更 (▲1,802M)
(−) CI事業の縮小 (▲558M)

営業利益　YoY +6.9% 増益

(+) 自社製品比率が上昇 (+5.2pt)、売上総利益率が改善 (+3.5pt)
(−) 従業員の業績連動決算賞与の導入に伴い、賞与引当金を繰入(▲228M)
(−) 販売関連費の増加(▲221M)

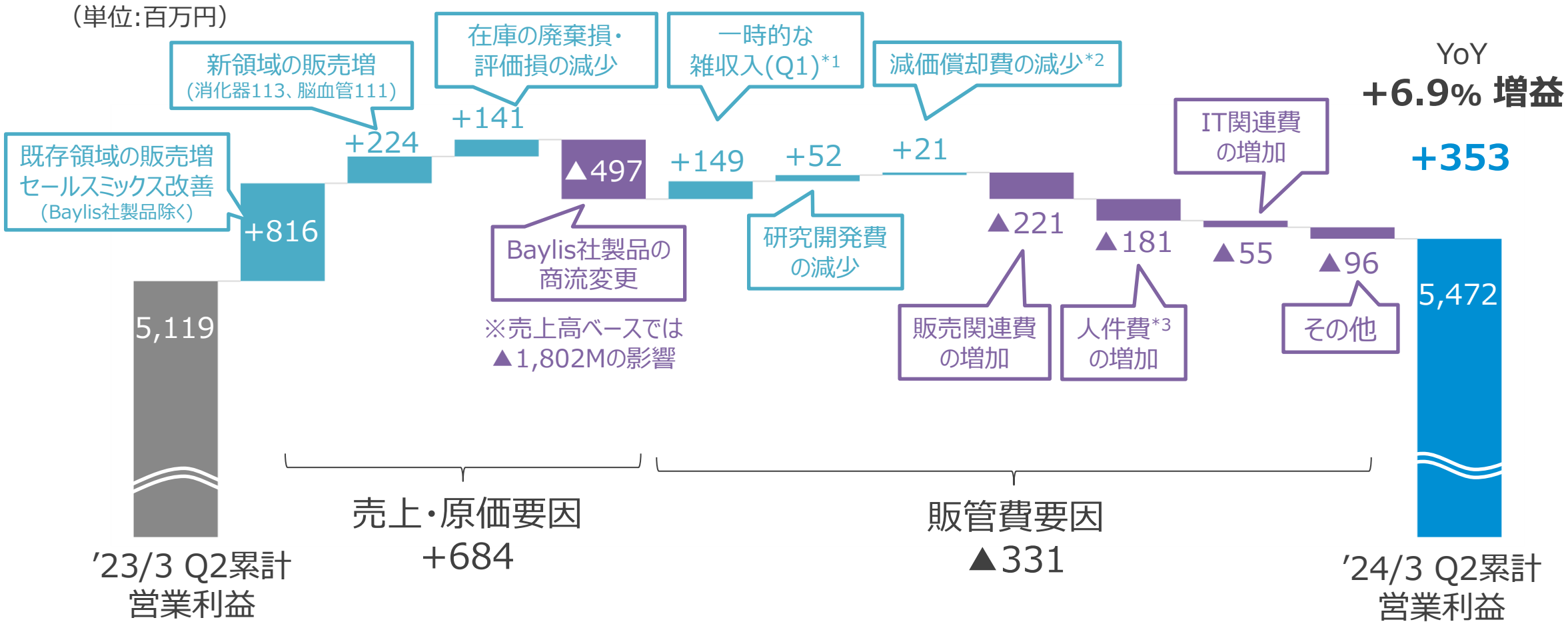
四半期純利益　YoY +9.0% 増益

(+) 税額控除の取得

2024/3期 連結営業利益 増減分析（Q2累計）

Japan Lifeline

✓ 既存領域と新領域がともに順調に進捗。Baylis社製品の商流変更のマイナス影響や販管費の増加を吸収し、**営業増益**

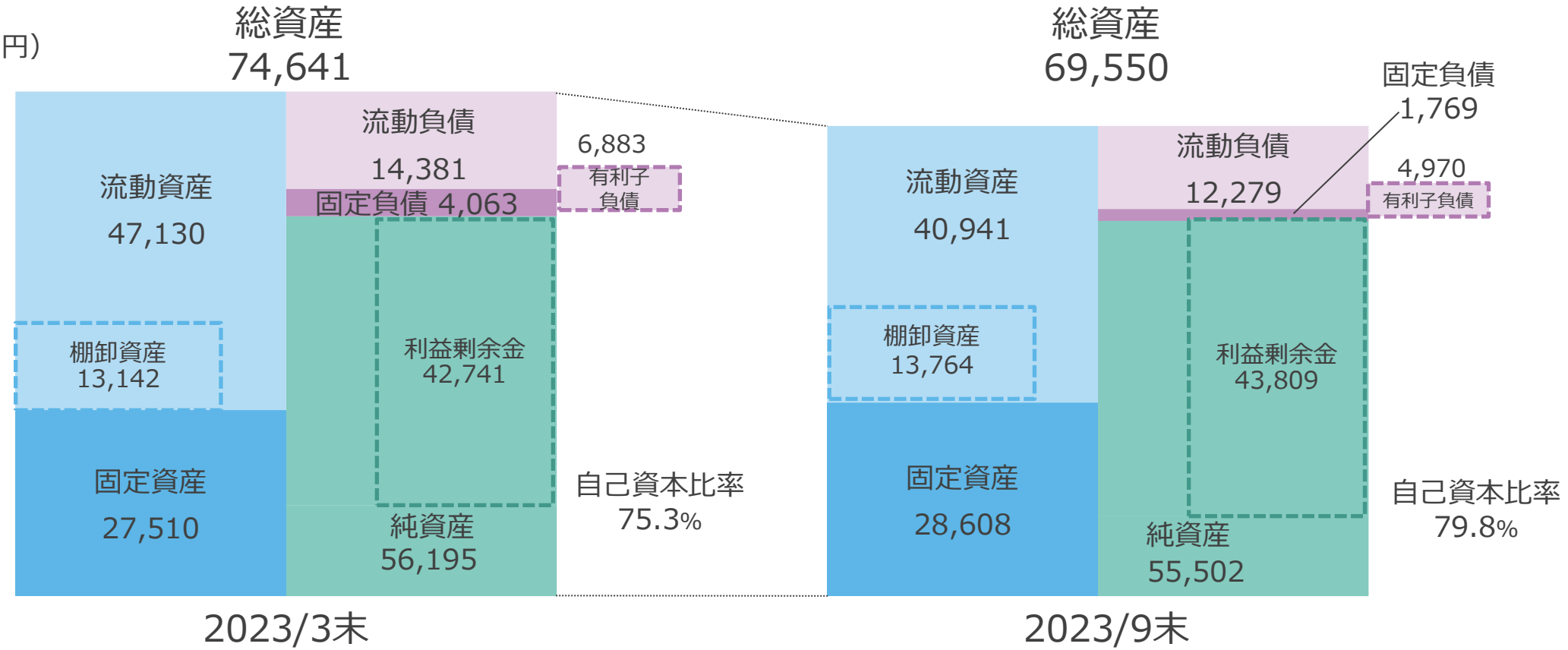


*1 Baylis社製品の販売契約終了に伴う在庫移管に関連する雑収入等
*2 2024/3期から償却方法を定率法から定額法に変更
*3 従業員の業績連動決算賞与の導入に伴い、賞与引当金繰入額が228M増加した等

2024/3期 連結貸借対照表（Q2末vs前期末）

- ✓ 流動資産　▲6,188 ⇒ 現金及び預金の減少、増産による棚卸資産の増加
- ✓ 固定資産　+1,098 ⇒ 投資有価証券の取得
- ✓ 流動負債　▲2,102 ⇒ 有利子負債(短期借入金)の一部返済
- ✓ 固定負債　▲2,294 ⇒ 退職給付信託の設定
- ✓ 純資産　▲693 ⇒ 配当金の支払、自己株式の取得

（単位:百万円）

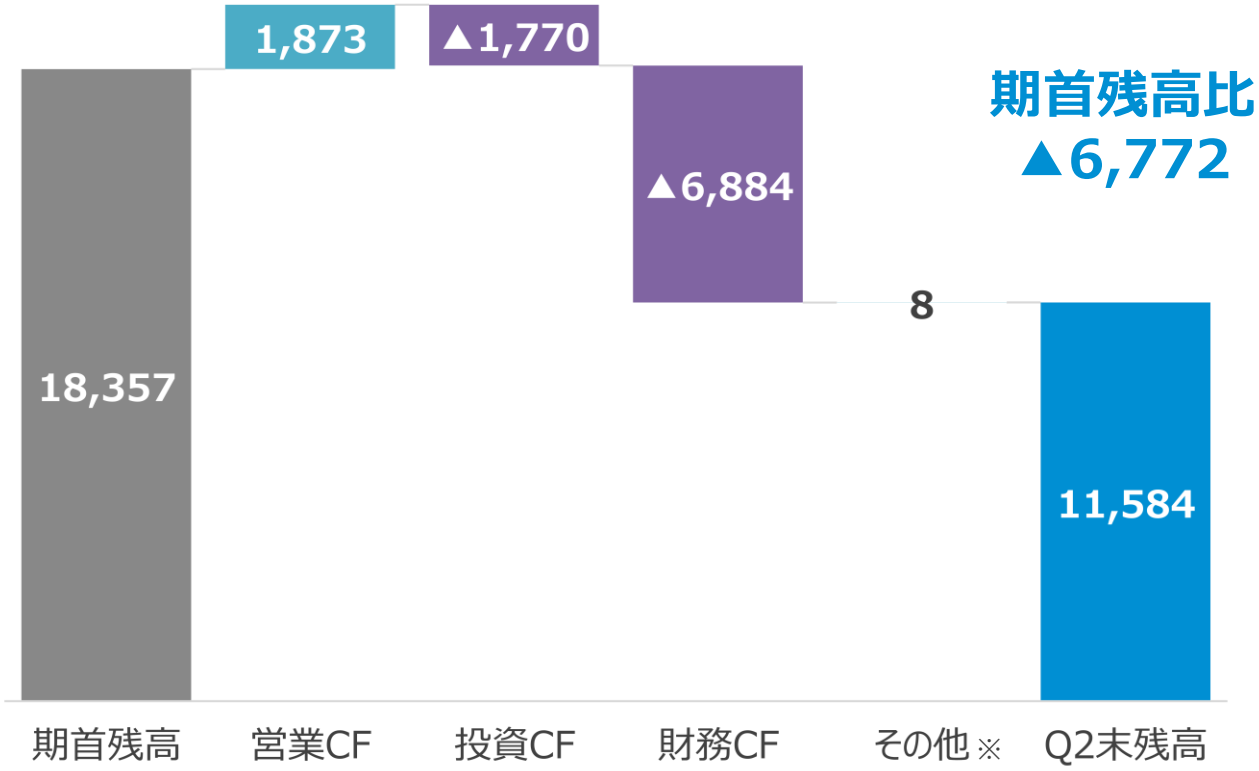


2024/3期 連結キャッシュフロー（Q2累計）

Japan Lifeline

✓ Q2末時点で、現金及び現金同等物は、期首残高から▲6,772百万円減少

（単位:百万円）



※ 現金及び現金同等物に係る換算差額

■営業CF

【増 加】
- 税金等調整前四半期純利益 ＋5,626
- 減価償却費 ＋670
- 売上債権の減少 ＋470

【減 少】
- 退職給付に係る負債の減少 ▲1,966
- 法人税等の支払 ▲1,591
- 棚卸資産の増加 ▲621

■投資CF

【減 少】
- 投資有価証券の取得 ▲1,417
- 有形固定資産の取得 ▲441
- 無形固定資産の取得 ▲368

■財務CF

【減 少】
- 配当金の支払 ▲2,966
- 自己株式の取得 ▲2,005
- 短期借入金の返済 ▲1,500
- 長期借入金の返済 ▲334

2024/3期 連結業績概況（Q2累計**対期初予想**）

Japan Lifeline

✓ コロナ後の事業環境は期初想定より良好。売上・利益ともに期初予想比では順調に進捗

（単位:百万円）	2024/3期 Q2累計 実績	予想比 金額	予想比 %	2024/3期 Q2累計 期初予想
売上高	25,132	+1,251	+5.2	23,880
売上総利益	15,231	+810	+5.6	14,420
構成比	60.6%			60.4%
販管費	9,758	▲173	▲1.7	9,932
構成比	38.8%			41.6%
営業利益	5,472	+984	+21.9	4,488
構成比	21.8%			18.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,033	+798	+24.7	3,235
構成比	16.0%			13.5%
自社製品比率	59.1%			59.9%

売上高　対予想+5.2% 上振れ

(+) EP/アブレーション等の既存領域が好調 (+1,065M)
(+) CI事業縮小の影響が想定より小 (+113M)
(+) 新領域(脳血管・消化器)が良好に進捗 (+58M)

営業利益　対予想+21.9% 上振れ

販管費関連：主な要素のみ
(+) 新基幹システムの稼働時期変更(＋150M程度)
(+) 個別案件の執行の遅れ等(＋150M程度)
(+) 退職や採用の遅れ(＋90M程度)
(−) 従業員の業績連動決算賞与の導入に伴い、賞与引当金を繰入(計画外：▲228M)
(−) 販売関連費の超過(▲56M)

四半期純利益　対予想+24.7% 上振れ

連結業績予想の修正

通期の連結業績予想を上方修正、営業増益を見込む

- ✓ コロナ禍明けの上期の事業環境は想定より良好、EP/アブレーションや脳血管領域の販売が予想を上回る
- ✓ 下期もEP/アブレーションや心血管関連を中心に好調な販売を見込むほか、新製品も寄与
- ✓ 販管費は前回予想の水準から大きくぶれない見通し

単位：百万円 (EPSは円)	2024/3期 通期 前回予想(A) (2023/5/10発表)	2024/3期 通期 今回予想(B) (2023/11/6発表)	増減額 (B-A)	増減率 %	前期比 %
売上高	48,807	50,680	+1,872	+3.8	▲2.1
営業利益	9,763	10,945	+1,181	+12.1	+1.0
経常利益	9,531	10,844	+1,312	+13.8	▲0.6
当期純利益	6,854	7,902	+1,047	+15.3	+14.7
EPS	89.13	103.81	+14.67	+16.5	+17.7
参考:AF症例数伸び率 (前期比)の前提	通期+6%	上期+9%(実績)、下期+6%(予想) 通期+7.5%(予想)			

配当予想の修正

✓ **配当予想を１株当たり42円に上方修正。**修正後の予想EPSに対して、ベース配当の設定である配当性向40%を適用

	2024/3期 前回予想 (2023/5/10発表)	2024/3期 今回予想 (2023/11/6発表)
①1株当たり配当 (期末配当)	38.00円	**42.00円**
②予想EPS	89.13円	103.81円
③配当性向 (①÷②)	42.6%	40.5%

参考：2023/3期実績 1株当たり配当38.00円、EPS 88.22円、配当性向43.1%

参考：中期経営計画(2024/3期~2028/3期)の株主還元の方針

1. 還元は配当を基本とし、ベース配当(配当性向40%またDOE5%)を設定
2. 業績・株価動向、中期経営計画の定量目標のEPS、ROICの達成見通しを踏まえ、追加の還元策として、配当の上乗せか自己株式の取得を適宜検討する



Japan Lifeline

01. 第2四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ(https://www.jll.co.jp/investors/)からダウンロードできます。

2024/3期 Q2累計 品目別売上高

- ✓ **コロナ禍明けの事業環境は良好**。Q2では学会の影響*1や夏季の一時的な症例の落ち込みはあったものの、EP/アブレーションや心血管関連を中心に自社製品が伸長
- ✓ 個別要因としては、Baylis社製品の商流変更 (EP/アブレーション) やCI事業の縮小(消化器) の影響が大きく、Q2累計では前年同期比▲1.4%の減収

(単位:百万円)	2024/3期			2023/3期	2024/3期			2023/3期
	Q2累計 実績	YoY	%	Q2累計 実績	7-9月 実績	YoY	%	7-9月 実績
リズムディバイス	6,671	+377	+6.0	6,293	3,224	+25	+0.8	3,199
EP/アブレーション	12,144	▲867	▲6.7	13,012	5,872	▲476	▲7.5	6,349
心血管関連	5,646	+536	+10.5	5,109	2,793	+295	+11.8	2,497
消化器 (消化器及びCI事業)	668	▲404	▲37.7	1,073	287	▲186	▲39.3	473
売上高 合計	25,132	▲356	▲1.4	25,489	12,177	▲342	▲2.7	12,519

*1 不整脈心電学会(2023/7/6~9) 学会期間中は全国から不整脈医が参集するため、症例数が減少する傾向あり。なお、前年の同学会の開催は2023/6(Q1)

S-ICDが大きく伸長、AEDも好調

① ペースメーカ関連は、Q1は好調も、Q2は他社の新製品の影響を受け減速。累計で前年並み
② ICD関連は、S-ICDの各種セミナーや医師向けハンズオン企画等の施策が奏功し売上を大きくけん引、半期ベースで過去最高。T-ICDは前年同期並み
③ その他は、AEDの販売・レンタルが好調に推移

（単位:百万円）	2024/3期 Q2累計 実績	YoY	%	2023/3期 Q2累計 実績	2024/3期 7-9月 実績	YoY	%	2023/3期 7-9月 実績
① ペースメーカ関連	2,553	+3	+0.2	2,549	1,208	▲61	▲4.9	1,270
② ICD関連	3,911	+334	+9.4	3,576	1,917	+73	+4.0	1,844
③ その他*1	206	+38	+23.2	167	98	+13	+16.3	84
リズムディバイス 計	6,671	+377	+6.0	6,293	3,224	+25	+0.8	3,199

*1 AED

2024/3期 Q2累計 EP/アブレーション

「RF Needle」の商流変更が響いたが、AF関連の自社製品は過去最高をマーク

① EPカテーテルは、想定以上のAF症例数の伸び(Q2累計・前年同期比9%増)*1を背景に売上は半期ベースで**過去最高。**「BeeAT」、「Esophastar」等の自社製品が前年同期比9～15%程度の増収
② アブレーションカテーテルは減収。HeartLight X3の供給不足はQ2に若干の改善も販売は低調
③ その他は、Baylis社製品の「RF Needle」等の商流変更により、大幅な減収

(単位:百万円)	2024/3期 Q2累計 実績	YoY	%	2023/3期 Q2累計 実績	2024/3期 7-9月 実績	YoY	%	2023/3期 7-9月 実績
① EPカテーテル	10,791	+1,011	+10.3	9,780	5,213	+399	+8.3	4,813
② ABLカテーテル	416	▲79	▲16.1	496	187	+13	+7.6	174
③ その他*2	936	▲1,798	▲65.7	2,735	470	▲890	▲65.4	1,360
EP/アブレーション 計	12,144	▲867	▲6.7	13,012	5,872	▲476	▲7.5	6,349

*1 Q2単体(7-9月)では、前年同期比9%程度増加と推定。2023年5月発表の期初予想では通期で前年比６%程度の伸び率を前提とした。
*2 スティーラブルシース、RF Needle等

2024/3期 Q2累計 心血管関連

堅調な人工血管関連をベースに新領域の脳血管が好調に推移し、2桁増収を達成

① 人工血管関連は、Q2累計で5%増収。人工血管・腹部用SG*1が堅調。オープンステントグラフトはQ2に新製品を投入し、好発進。競合の参入があるも、前年同期並みを維持

② 脳血管関連は大幅増収、予想も大幅に上振れ。塞栓用コイルの新モデルとQ1発売の血栓吸引カテーテルは良好な臨床評価のもと順調に進捗

③ その他は、前年同期並み。心房中隔欠損閉鎖器具が引き続きトップシェアで推移

（単位:百万円）	2024/3期			2023/3期
	Q2累計 実績	YoY	%	Q2累計 実績
① 人工血管関連	5,081	+243	+5.0	4,837
② 脳血管関連	353	+295	+511.6	57
③ その他*2	211	▲2	▲1.3	214
心血管関連 計	5,646	+536	+10.5	5,109

2024/3期			2023/3期
7-9月 実績	YoY	%	7-9月 実績
2,441	+102	+4.4	2,338
218	+184	+537.9	34
133	+8	+6.8	125
2,793	+295	+11.8	2,497

*1 ステントグラフト
*2 心房中隔欠損閉鎖器具を含む

2024/3期 Q2累計 消化器

新製品の胆管チューブステントが大きく伸長

① 消化器関連は、Q2累計で前年同期比1.5倍の大幅増収
胆管チューブステント「REGULUS」の市場への浸透が進み、発売後1年でシェア10%程度を獲得
大腸用ステント、肝癌アブレーションニードルも堅調
胃・十二指腸用ステントはQ1で発生した自主回収の影響が継続、来期に改良品を再上市する予定

② その他は、CI事業の規模縮小が継続し大幅減収。CI事業は当期中に終了へ

（単位:百万円）	2024/3期			2023/3期
	Q2累計 実績	YoY	%	Q2累計 実績
① 消化器関連	443	+154	+53.5	289
② その他*1	225	▲558	▲71.3	784
消化器 計 （消化器及びCI事業）	668	▲404	▲37.7	1,073

2024/3期			2023/3期
7-9月 実績	YoY	%	7-9月 実績
223	+70	+46.2	153
63	▲256	▲80.2	320
287	▲186	▲39.3	473

*1 事業撤退を予定しているCI事業。薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル等を含む

01. 第2四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ(https://www.jll.co.jp/investors/)からダウンロードできます。

中期重点施策の取組状況(現時点での見通しを含む)

前回からの内容更新は赤字で表記

1. 新領域の拡大

消化器
- 胆管チューブステント「REGULUS」の市場浸透が進む。

  ターゲット施設採用率*1 Q1 20% ⇒ Q2 40%(シェア10%+)

心血管関連(脳血管)
- 血栓吸引カテーテル「Esperance」を発売【Q1】

  ⇒ 良好なスタート、預託施設をさらに拡大へ【Q2~Q3】

心血管関連(脳血管)
- 塞栓用コイルの追加モデル「Avenir Pico」を発売【Q2】

*1 ターゲット施設(600+)のうち「REGULUS」が継続採用された施設数(250+)の割合

中期重点施策の取組状況(現時点での見通しを含む)(続き)

前回からの内容更新は赤字で表記。★は後スライドで説明あり

2. 競争力のある製品の継続的導入

EP/アブレーション
- ヘモネティクスジャパン社と止血デバイス「VASCADE MVP」の独占販売契約を締結【Q1】 ⇒ 2023/10 保険適用、販売開始【Q3~】

EP/アブレーション
- 心腔内除細動カテーテル「BeeAT」の販促強化【Q1~Q2】
  ⇒ 15番目のモデルとなる「Lumen BeeAT」を発売【Q3】

心血管関連(大動脈)
- ★オープンステントグラフト「Frozenix Partial ET」を発売
  ⇒ 好発進＆新規顧客獲得【Q2】

心血管関連(心臓弁)
- ★Meril Life Sciences社とTAVI弁の独占販売契約を締結【Q3】

3. 資本効率を意識した経営の強化

株主還元
自己株式の取得が進捗中*1(進捗率 71%*2, 2023年10月末時点) 【Q3】

*1 期間：2023年5月11日～2024年2月29日　上限：普通株式 300万株（発行済株式数(自己株式を除く）の3.9%）または40億円
*2 取得株数ベース

オープンステントグラフト「Frozenix Partial ET」

心血管関連(大動脈)

Japan Lifeline

- ✓ 製品：「Frozenix Partial ET」(自社製品)
- ✓ 販売：2024/3期 Q2~
- ✓ 市場：OSG*1市場は約40億円　現状シェアほぼ100%
- ✓ 戦略：合併症リスクの低減を図ることで、従来の外科手技からOSGを使う手技への置き換わり(適応拡大)をねらう。
  数年で7~8 億円の売上の純増を目指す



Frozenix (2014)
保険償還価格 1,110,000円



Frozenix 4 Branched(2022)
保険償還価格 1,355,000円



新発売

Frozenix Partial ET(2023)
保険償還価格 1,110,000円

カッコ内は発売年を表す

Frozenix Partial ETの特長

- 従来よりステントワイヤーを細径化、合併症リスク*2の低減をねらう
- 追加治療を想定した製品デザイン
  (＝末梢部スカートの延長による吻合部の確保)

自社製品のFrozenixシリーズをさらに強化、フロンティアを開拓

*1 オープンステントグラフト
*2 主にdSINE(distal stent graft-induced new entry)。ステントグラフトの留置により、ステント部が生来の血管に干渉し新たな大動脈解離を引き起こしてしまう合併症。

TAVI弁「Myval Octacor」の独占販売契約

心血管関連(心臓弁)

Japan Lifeline

- ✓ 商品　：TAVI*1弁「Myval Octacor」
  経カテーテル人工生体弁セット(バルーン拡張型)
- ✓ 仕入先　：Meril Life Sciences Pvt. Ltd.(インド)
  ⇒ Bilakhia Group傘下のグローバル・メドテックカンパニー
- ✓ 期間　：10年間の独占販売契約
- ✓ 対象疾患　：大動脈弁狭窄症(心臓弁膜症)
  ⇒ 本商品は経カテーテル手術(TAVI)で機能低下した心臓弁を置換することで治療する
- ✓ 販売　：数年以内に発売予定

BILAKHIA HOLDINGS

Meril
More to Life



Myval Octacor

TAVI手術で合併症回避のために
重要とされる**「正確な留置」に特化**

Myval Octacorの特長

- 内装されたバルーンの拡張に合わせて留置位置を微調整
- 競合製品よりも多い9種類のサイズラインナップから患者様の弁輪径に最適なサイズを選択可能
- 「八角形セル構造」が留置時(展開時)の位置ずれを低減

競争力のあるTAVI弁で心臓弁膜症領域に再参入

*1経カテーテル的大動脈弁植込術（Transcatheter Aortic Valve Implantation）

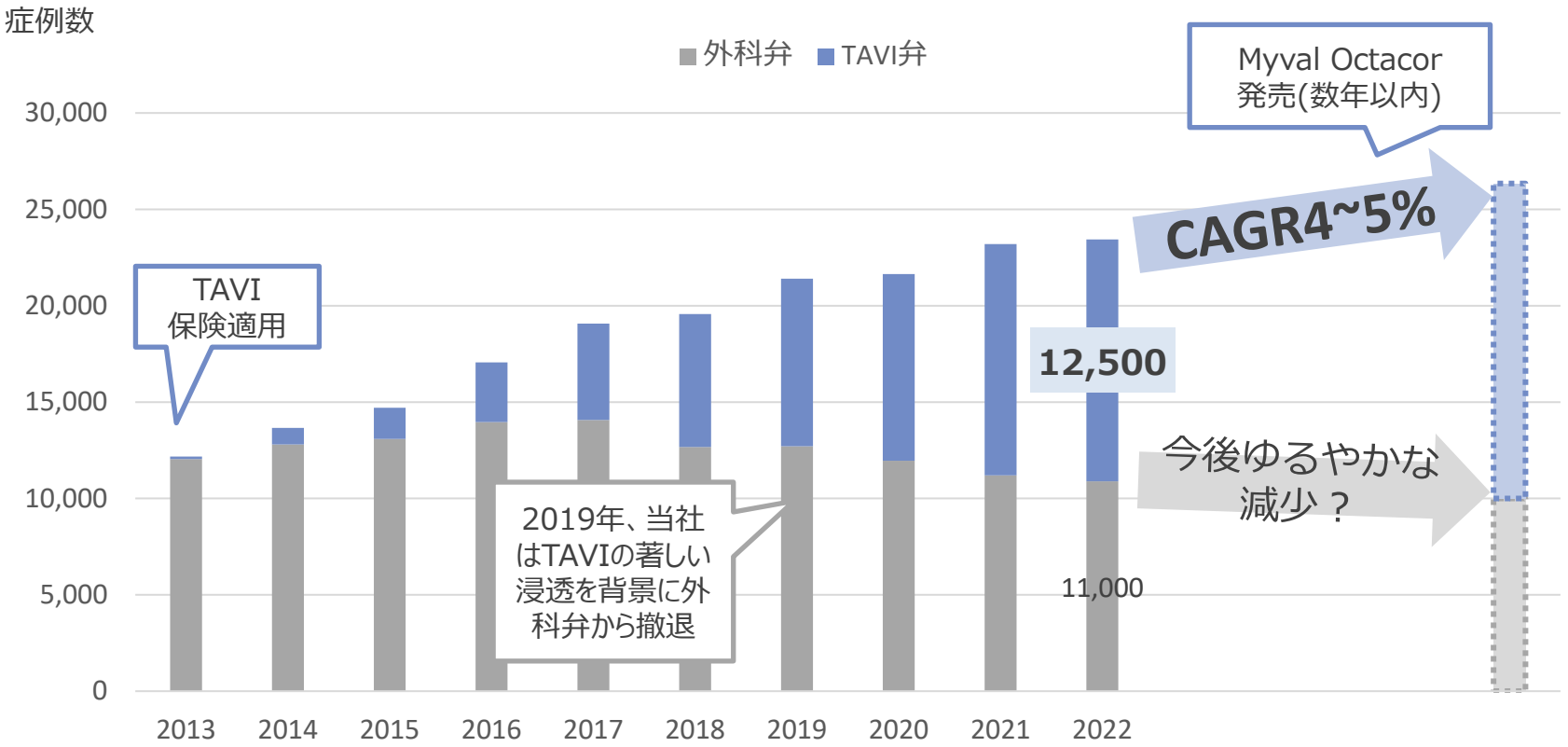
国内のTAVI市場について

心血管関連(心臓弁)

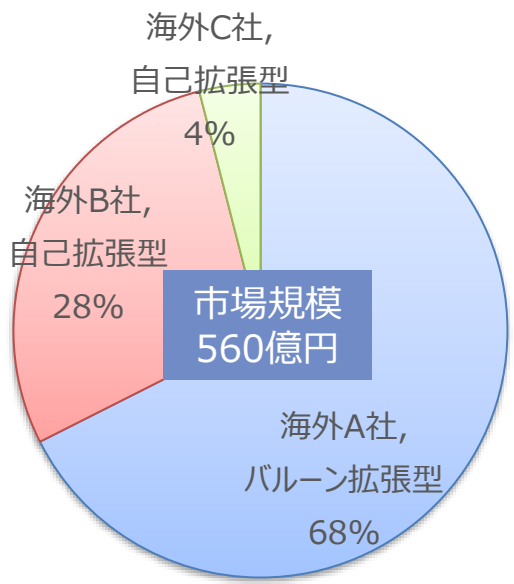
Japan Lifeline

- ✓ カテーテル手術であるTAVIは若年層への適応拡大等で急速に普及、今後もCAGR4~5%で拡大
- ✓ 既存市場のTAVI弁は「自己拡張型(保険償還374万円)」と「バルーン拡張型(同451万円)」との2種類
- ✓ **留置性能に強みのあるバルーン拡張型**の「Myval Octacor」は他社との差別化ポイントが明確

国内の大動脈弁狭窄症の症例数予測*1



TAVI金額ベース市場
(2023年予測)*2



*1 矢野経済研究所(2022), 自社調べ
*2 R&D(2023)

01. 第2四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ(https://www.jll.co.jp/investors/)からダウンロードできます。

ご質問方法

ご質問につきましては、お一人様一回につき、2問までとさせていただきます。

WEB上でご質問の方

※音声に不具合がある場合は、テキスト形式でご質問ください。

- 画面左側「QA」タブを選択し、「挙手する」ボタンを選択するか、メニューバーの「挙手アイコン」を選択してください。C-Meetingから「確認されました」 の音声が聞こえます。
- 司会者がお名前をお呼びしましたら、右図の画面に自動で切り替わりますので、ビデオのオン・オフを選択し、「続ける」を選択してください。
- 質問を取り消す場合は、同じ画面左側「QA」タブを選択し、「挙手を取り下げる」を選択するか、メニューバーの「挙手取り下げアイコン」を選択してください。



（テキスト形式）

- 画面左側「QA」タブを選択し、質問を右図のようにテキストで入力の上、送信してください。
- 司会者が質問を選択するまでは、記載いただいたご質問内容の編集が可能です。また、途中でご質問を取り消す場合は、「質問を削除する」を選択してください。



電話でご質問の方

- ご質問のある方は、電話機のコメ印の後に 数字の「 1 」を押してください。
- 司会者がお名前をお呼びしましたら、会社名・お名前の後にご質問をお願いいたします。
- 途中でご質問を取り消す場合は、コメ印の後に 数字の「 2 」を押してください。

01. 第2四半期決算報告

02. 販売ハイライト

03. 重点施策の取組状況

04. 質疑応答

Appendix. 参考資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ(https://www.jll.co.jp/investors/)からダウンロードできます。

2024/3期 連結サマリー（Q2 7-9月）

Japan Lifeline

Q2 7-9月 損益ハイライト

売上高		営業利益		四半期純利益	
12,177 百万円	YoY ▲342 (▲2.7%)	2,296 百万円	YoY ▲115 (▲4.8%)	1,703 百万円	YoY ▲52 (▲3.0%)

- ✓ 前期はコロナの影響が大きく、当期は主力の自社製品が堅調に推移するも、Baylis社製品の商流変更やCI事業の縮小により**減収**
- ✓ 前年同期比では、学会の開催*1(売上で2営業日分に相当する影響)や夏季の一時的な症例減の影響あり
- ✓ コスト面では営業活動の増加に伴う費用増や従業員向けの業績連動決算賞与の導入等あり。営業利益、四半期純利益は**減益**

品目別 売上高ハイライト

リズムディバイス YoY +0.8%

→ (+) S-ICDが好調
(−) ペースメーカが競合の影響受ける

EP/アブレーション YoY ▲7.5%

↘ (−) Baylis社製品の商流変更
(+) AF関連製品が伸長

心血管関連 YoY +11.8%

↑ (+) 人工血管関連が堅調
(+) 脳血管関連が好調

消化器 (消化器及びCI事業) YoY ▲39.3%

↓ (−) CI事業の縮小
(+) 胆管用チューブステントが伸長

*1 不整脈心電学会(2023/7/6~9) 学会開催期間中は全国から不整脈医が参集するため、症例数が減少する傾向がある。なお、前年の同学会の開催は2022/6(Q1)

2024/3期 連結業績概況（Q2 7-9月）

Japan Lifeline

✓ Q1に引き続き良好な事業環境が継続も、Baylis関連の個別の減収要因や販管費増により**減収減益**

（単位:百万円）	2024/3期			2023/3期
	7-9月 実績	YoY	%	7-9月 実績
売上高	12,177	▲342	▲2.7	12,519
売上総利益	7,343	+255	+3.6	7,087
構成比	60.3%			56.6%
販管費	5,046	+371	+7.9	4,675
構成比	41.4%			37.3%
営業利益	2,296	▲115	▲4.8	2,412
構成比	18.9%			19.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,703	▲52	▲3.0	1,756
構成比	14.0%			14.0%
自社製品比率	58.4%			53.2%

売上高　YoY ▲2.7% 減収

(+) 既存領域が好調 (+548M)
(+) 新領域(脳血管・消化器)が良好に進捗 (+254M)
(−) Baylis社製品の商流変更 (▲888M)
(−) CI事業の縮小 (▲256M)

営業利益　YoY ▲4.8% 減益

(+) 自社製品比率が上昇 (+5.2pt)、売上総利益率が改善 (+3.7pt)
(−) 従業員の業績連動決算賞与の導入に伴い、賞与引当金を繰入(▲228M)
(−) 販売関連費の増加(▲140M)

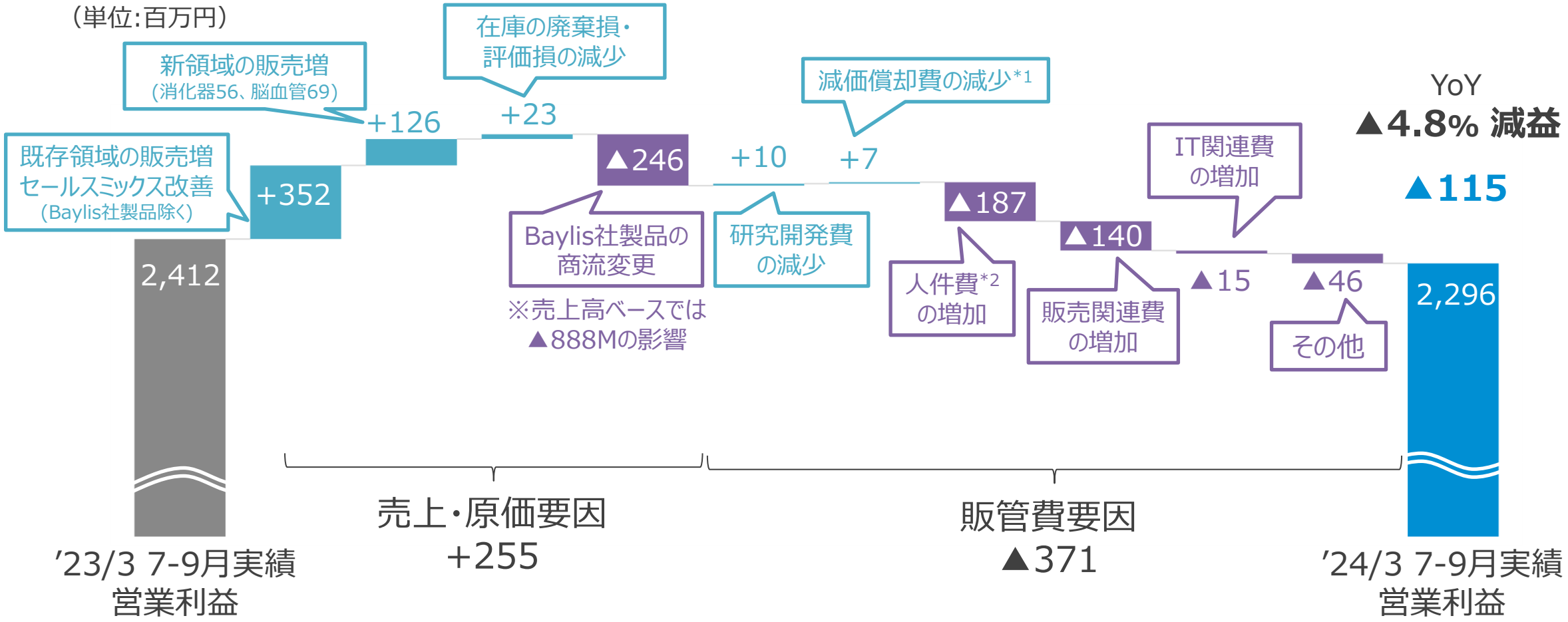
四半期純利益　YoY ▲3.0% 減益

(+) 税額控除の取得

2024/3期 連結営業利益 増減分析（Q2 7-9月）

Japan Lifeline

✓ 既存領域と新領域がともに順調に進捗。一方、Baylis関連の影響や販売関連や人件費関連のコストアップがあり、**営業減益**



*1 2024/3期から償却方法を定率法から定額法に変更
*2 従業員の業績連動決算賞与の導入に伴い、賞与引当金繰入額が228M増加した等

連結業績予想の修正の補足（下期の修正内容）

Japan Lifeline

✓ 下期も堅調な販売が継続する見通しを受け、売上高と営業利益の予想を引き上げ

（単位:百万円）	2024/3期	2024/3期			
	下期 前回予想(A)	下期 今回予想(B)	修正額 (B-A)	修正率 %	下期 YoY%
売上高	24,926	25,547	+621	+2.5	▲2.7
売上総利益	15,270	15,500	+229	+1.5	+1.0
構成比	61.3%	60.7%			
販管費	9,995	10,028	+32	+0.3	+4.1
構成比	40.1%	39.3%			
営業利益	5,275	5,472	+197	+3.7	▲4.3
構成比	21.2%	21.4%			
当期純利益	3,619	3,868	+249	+6.9	+21.3
構成比	14.5%	15.1%			

売上高 修正+2.5%

(+) 止血デバイス
(+) EP/アブレーション AF関連*1
(+) S-ICD
(+) 脳血管関連
(−) スティーラブルシース
(−) 胃十二指腸ステント(Q1に自主回収)
(−) ペースメーカ

営業利益　修正+3.7%

(−) 販管費は上期遅れた案件が進捗するため増加

当期純利益　修正+6.9%

(+) 連結子会社で繰延税金資産を認識の見込み

*1 心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、食道温モニタリングカテーテル「Esophastar」

事業環境 現時点から6か月先の見通し

事業領域	品目	2024/3期 Q2 実績		2024/3期 Q3 予想		2024/3期 Q4 予想	
リズムディバイス	ペースメーカ関連	↘ 前回: →	他社製品影響が再開	→ 前回: →	直前Qから大きな変化なし(他社製品影響が継続)	→	直前Qから大きな変化なし(他社製品影響が継続)
	ICD関連	→	S-ICD好調継続	→	直前Qから大きな変化なし(S-ICD好調継続)	→	直前Qから大きな変化なし(S-ICD好調継続)
EP/アブレーション	EPカテーテル	→	AF症例堅調、他社供給問題(EPカテ、食道カテ)	→	直前Qから大きな変化なし(AF症例堅調持続、他社供給問題継続)	→	直前Qから大きな変化なし(AF症例堅調持続、他社供給問題継続)
	ABLカテーテル	→ 前回: ↗	HeartLight X3品薄やや改善も、拡販は遅れ	↗ 前回: →	品薄状況、販売は一定程度改善	→	直前Qから大きな変化なし
	その他	→ 前回: ↗	S(スティーラブル)シース生産・供給不足	↗ 前回: →	止血デバイス販売開始(予想織り込みなし)、Sシース増産も販売横ばい	↗	止血デバイス拡販進む、Sシース増産による販売改善へ
心血管関連	人工血管関連	↘	シェア増、季節性の減(YoY+4.4%)	↗	季節性の増、新製品効果(YoY+4%程度)	→	直前Qから大きな変化なし(YoY+2%程度)
	脳血管関連	↗	塞栓用コイル新モデル追加、血栓吸引カテ良好な立ち上がり	↗	営業体制強化、新商品の導入効果	↗	直前Qより拡販さらに進む
消化器	消化管関連	↘	自主回収の影響(胃・十二指腸ステント)大腸ステント、肝癌ABLニードル堅調	→	直前Qから大きな変化なし	→	直前Qから大きな変化なし
	胆膵関連	↗	チューブステントの拡販	↗	直前Qより拡販さらに進む	↗	直前Qより拡販さらに進む

＊ 矢印は前QからのQoQベースでの売上高に影響する事業環境のトレンド変化を表す（上向き、横ばい、下向きの3段階で評価）
前回から見解の変更がある場合は、前回の見解を併記してコメントを赤字で記す

2024/3期上期のIRニュース（適時開示以外のPR情報）

■2023年5月上旬～8月上旬　※本決算発表以降

- 2023-05-10 血栓吸引カテーテルの販売開始に関するお知らせ
- 2023-06-05 スポンサードレポートの発行のお知らせ
- 2023-06-10 医師向け会員制WEBサイト「JLLプラス（JLLplus）」がオープン
- 2023-06-19 医療機器における品質マネジメントシステムの国際規格MDSAP認証を取得
- 2023-06-28 大腿静脈用止血デバイスの独占販売契約の締結に関するお知らせ

■2023年8月上旬～11月上旬　※Q1決算発表以降

- 2023-08-09 「JPX日経中小型指数」構成銘柄への選定に関するお知らせ
- 2023-08-21 オープンステントグラフトの新製品「Frozenix Partial ET」の販売開始のお知らせ
- 2023-10-05 2023年度グッドデザイン賞 受賞のお知らせ
- 2023-10-17 大腿静脈用止血デバイス「VASCADE MVP」の保険適用のお知らせ
- 2023-10-27 経カテーテル生体弁の独占販売契約の締結に関するお知らせ

用語集

ページ	用語・略称	
4	Baylis	Baylis Medical Company, Inc.
4	AF (心房細動)	Atrial Fibrillation（心房細動） 房と呼ばれる心臓内の部屋が小刻みに震えてけいれんする心臓の病気
4	CI事業	Coronary Intervention(冠動脈インターベンション）事業。心筋梗塞などの虚血性心疾患を治療する冠動脈ステント、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル等を取り扱う。この事業領域は、競争過多で市場価格の下落が厳しく、症例数も今後減少する見込みとなったことを受け、当社は2024/3期中に同事業から撤退する予定。
5	新領域	消化器及び脳血管の領域。心臓以外の領域で当社が中期で重点的に取り組む領域として定める。
5	既存領域	心臓の領域。不整脈（リズムディバイス、EP/アブレーション）、大動脈瘤(心血管関連)、構造的心疾患（心血管関連）に関する製品ラインナップ
9	自社製品比率	売上高に占める自社製品の比率。売上総利益率(粗利率）と高く相関
14	ハンズオン	医師がデモ機を使って機器の使用感を確認できる実地体験型のプロモーションイベント
16	心房中隔欠損閉鎖器具	先天的に心臓の左右の心房を隔てる壁に穴が開いている疾患（心房中隔欠損症）を、外科手術を行うことなく閉鎖することが出来る植込み型の医療機器
20	Lumen BeeAT	自社製心腔内除細動カテーテル「BeeAT」のモデルのひとつ カテーテルが筒状になっており、中から細径のEPカテーテルやガイドワイヤーを先行させ使用することができる
21	適応拡大	従来は一定の条件下で使用推奨とされていたものが、臨床エビデンスの蓄積によりガイドラインの改定等が行われ、より幅広いケースで使用推奨となること。また、新たな保険の算定要件や新たな保険償還価格を獲得すること。適応拡大は、医療機器の市場拡大、シェア拡大のトリガーとなる。
23	保険償還価格	公的医療保険制度において医療機関が診療報酬として保険機関に請求できる代金のうち、医療材料として請求できる材料の請求価格。医療機器については、2年に1回、厚生労働省が納入価格の実態調査を行い、それを元に改定する。

会社概要等

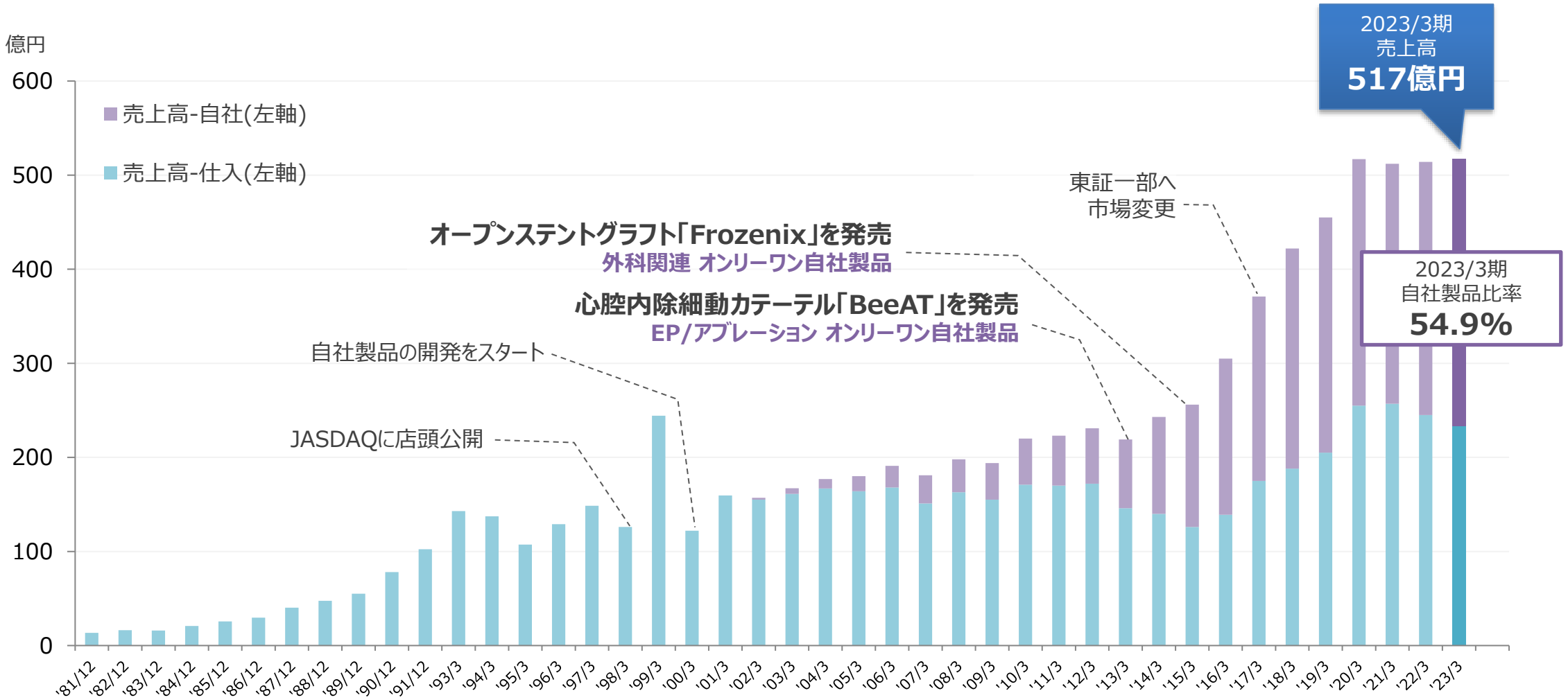
会社概要

商号	日本ライフライン株式会社
代表者	代表取締役社長　鈴木啓介
本社	東京都品川区東品川2-2-20　天王洲オーシャンスクエア
設立	1981年2月6日
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7575
事業内容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資本金	2,115百万円
決算期	3月31日
従業員数	連結1,177名/単体958名（2023年9月30日 現在）
事業所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、 研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、 天王洲ACCADEMIA（研修センター）（2023年9月30日 現在）
連結子会社	JLL MALAYSIA SDN. BHD.

トラックレコード

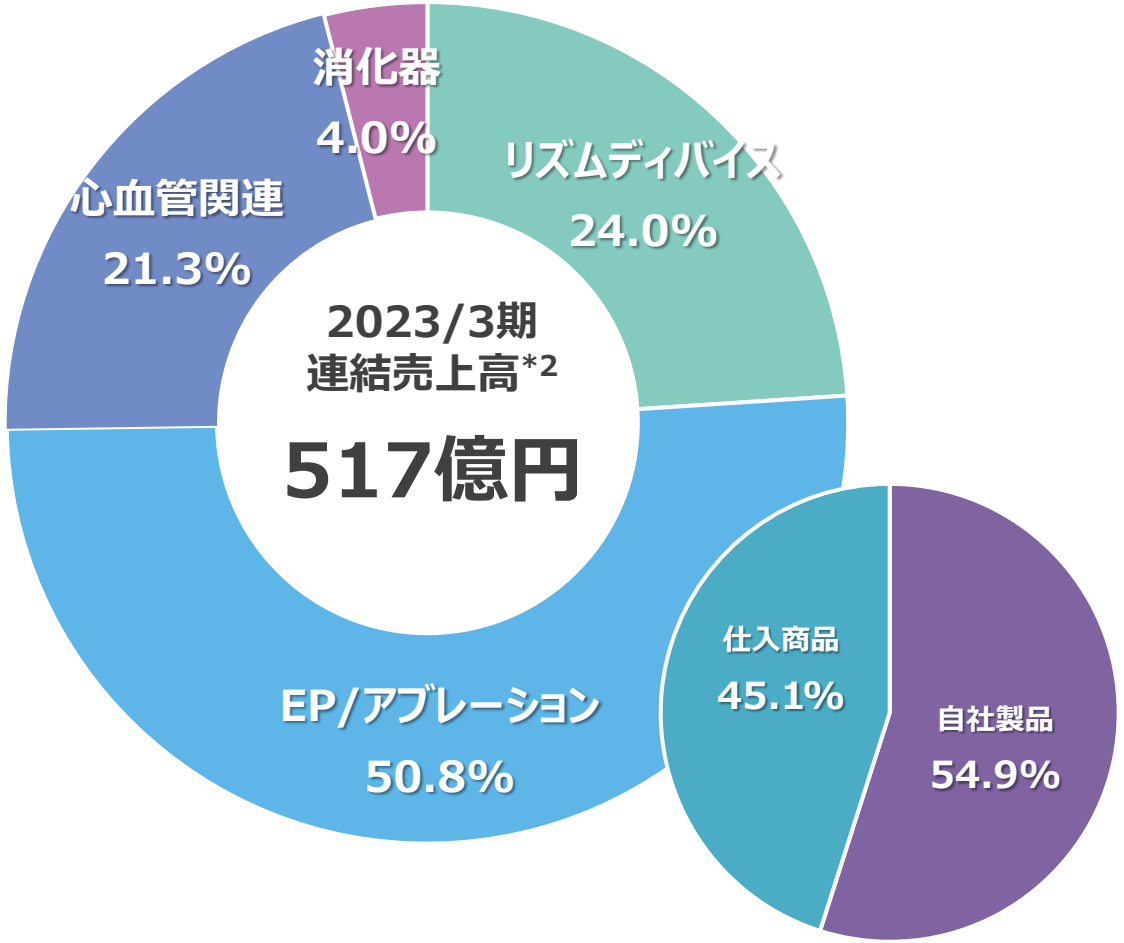
Japan Lifeline

✓ 業界で類を見ないメーカー/商社のビジネスモデルと、オンリーワンの自社製品を軸に成長



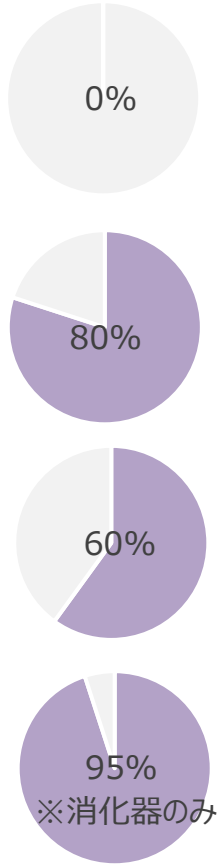
事業領域

- ✓ メインの疾患領域は**心臓血管領域**であり、4つの品目区分に分類される
- ✓ 新領域として、**消化器**と**脳血管**[*1]にも注力し、疾患領域を拡大へ



リズム ディバイス	• **不整脈**を治療する体内植込み型の医療機器（BSJ社[*3]との長期独占販売契約）
EP/ アブレーション	• **不整脈**の検査や治療を行う使い捨てのカテーテルなどの医療機器
心血管関連 *4*6	• **大動脈瘤**などを治療するための人工血管やステントグラフトなどの医療機器 • **脳動脈瘤**や**脳卒中**を治療するための医療機器
消化器*5*6	• **消化器疾患**を治療する医療機器

自社製品比率



*1 品目区分では、「心血管関連」に該当
*2 2024/3期から品目区分を刷新しております。ここでは2023/3期の内訳を新区分で表示しています
*3 Boston Scientific Japan社 （Boston Scientific Corporation (米)の日本子会社）

*4 2023/3期末 名称変更 旧：「外科関連」⇒ 新：「心血管関連」
*5 2023/3期末 名称変更 旧：「消化器/PI」 ⇒ 新：「消化器」
*6 心房中隔欠損閉鎖器具は旧区分の「消化器/PI」から新区分の「心血管関連」に移動

商品紹介 リズムディバイス

✓ 不整脈(心臓の拍動が遅くなる、または早くなる疾患)を治療する体内植込み型の医療機器

ペースメーカ関連

心臓ペースメーカ

商品名：Accolade（Boston Scientific社製）



心臓の拍動が遅くなる不整脈(徐脈)に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

保険償還価格

シングルチャンバ　454,000円

デュアルチャンバ　593,000円

CRT-P (両心室心臓ペースメーカ)

商品名：Visionist X4（Boston Scientific社製）



重症心不全に対して、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与える、心臓の同期不全を整えポンプ機能を改善します。

保険償還価格

1,290,000円

ＩＣＤ関連

T-ICD (経静脈植込型除細動器)

商品名：Resonate（Boston Scientific社製）



心臓の拍動が早まる不整脈(頻脈)のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与え、拍動を正常な状態に戻します。

保険償還価格

シングルチャンバ　2,730,000円

デュアルチャンバ　2,820,000円

S-ICD (完全皮下植込型除細動器)

商品名：Emblem MRI（Boston Scientific社製）



T-ICDは静脈を介し心臓内にリードを留置しますが、S-ICDは全ての機器を皮下に植込み血管内や心臓へ異物留置がありません。

保険償還価格

3,120,000円

*保険償還価格は2023年４月１日現在

商品紹介 EP/アブレーション

Japan Lifeline

✓ 不整脈の検査や治療を行う、ディスポーザブルの電極付カテーテルなどの医療機器

ＥＰカテーテル関連

EP（電気生理用）カテーテル

製品名：EP Star, Libero, Snake, Esophastar（自社製品）



不整脈の診断や治療方法の適応を判断する検査に用います。カテーテル先端の電極で、心臓内電位を測定したり、不整脈を誘発させて原因を特定します。

保険償還価格

標準型(電極数3～5)　46,800円

温度センサ付(エソファスター)　85,400円

心腔内除細動カテーテル

製品名：BeeAT（自社製品）



アブレーション治療時に発生する心房細動に対し、心腔内で除細動を行うことで、低侵襲に心房細動を停止させます。またEPカテーテルとしての診断機能も合わせ持っています。

保険償還価格

214,000円

ＡＢＬカテーテル関連

アブレーションカテーテル

製品名：Ablaze（自社製品）



頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流で焼き切ることにより治療します。

保険償還価格

通常型　117,000円

内視鏡レーザーアブレーションカテーテル

商品名：HeartLight X3（Cardio Focus社製）



バルーン内部からレーザーを照射し、頻脈の原因となる部位を焼き切り治療します。カテーテル内部の内視鏡で、正確な留置・焼灼が可能です。

保険償還価格

505,000円

*保険償還価格は2023年４月１日現在

商品紹介 EP/アブレーション （続き）

Japan Lifeline

✓ 心房細動のアブレーション手術に関連する医療機器

その他

スティーラブルガイディングシース

商品名：Leftee（自社製品）



診断又は治療のためのカテーテルを経皮的に心臓に挿入するために使用されます。先端部は、ハンドルの回転ノブを操作することで、屈曲させることができます。

保険償還価格

118,000円

大腿静脈用止血デバイス

商品名：VASCADE MVP (Haemonetics社製)



アブレーション手術等の後に穿刺部 (太腿) の止血を行うために用いられます。体内吸収性のコラーゲンを用いて止血するもので、術後の止血時間および安静期間の短縮化が期待できます。

保険償還価格

28,400円

(条件により1症例4セットまで保険算定可)

ATパッチ心電図レコーダ

商品名：ATパッチ (ATsens社製)



世界最小クラスのコードレス心電図レコーダであり、小型・軽量の使い捨てのパッチを体表面に貼ることで検査を行います。最長7日間の長期データ記録が可能です。

保険償還価格

17,500円

(ホルター型心電図検査 8H超の場合)

*保険償還価格は2023年４月１日現在

商品紹介 心血管関連

Japan Lifeline

- ✓ 大動脈: 本来の機能が失われた血管を人工の器官に置き換え、治療するための医療機器
- ✓ 脳血管: 脳梗塞や脳動脈瘤を治療するための医療機器

人工血管関連

人工血管

製品名：J Graft（自社製品）



開胸手術により動脈瘤などで痛んだ血管を切り取り、人工血管に置き換え治療します。

保険償還価格

分岐なし（ストレート）117,000円
1分岐（T字）179,000円
2分岐以上（4分岐）245,000円

(腹部用)ステントグラフト

商品名：AFX2, Alto (Endologix社製)



外科手術を行うことなく、足の付け根の血管からカテーテルを通じて、治療部位に留置し大動脈瘤を治療します。

保険償還価格

標準型（AFX）1,320,000円
ポリマー充填型（Alto）1,430,000円

オープンステントグラフト

製品名：Frozenix（自社製品）



大動脈に挿入し拡張することにより血管に固定します。片側の吻合が不要なため、開胸手術を行うものの低侵襲に大動脈瘤の治療を行います。

保険償還価格

1,110,000円

脳血管関連

塞栓用コイル

商品名：Avenir（Wallaby Medical社製）



脳動脈瘤内に塞栓用コイルを留置することで血液の流入を遮断し、瘤の破裂(くも膜下出血)を防ぎます。

保険償還価格

ワイヤー式 82,900円

血栓吸引カテーテル

商品名：Esperance（Wallaby Medical社製）



脳血管内にカテーテルを挿入し血栓を回収することで、急性期脳梗塞の治療を行います。

保険償還価格

273,000円

*保険償還価格は2023年４月１日現在

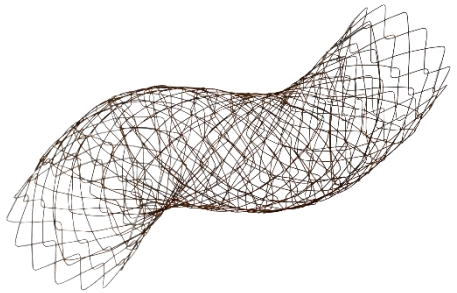
商品紹介 消化器

✓ 消化器：肝臓や大腸などの消化器疾患を治療する医療機器

消化器

大腸用ステント

製品名：JENTLLY NEO Colonic Stent（自社製品）



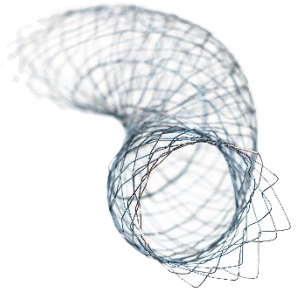
癌により閉塞した大腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。

保険償還価格

216,000円

胃・十二指腸用ステント

製品名：JENTLLY NEO Duodenal Stent（自社製品）



癌により閉塞した胃や十二指腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。

保険償還価格

216,000円

肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針

製品名：arfa（自社製品）



超音波(エコー)やCTで観察しながら針状の電極を経皮的に肝癌の病変組織へ挿入し、電極周囲にラジオ波による熱を発生させ病変を焼灼し治療します。

保険償還価格

なし。保険区分A2(特定包括)で特定の診療報酬項目において包括的に評価される。

胆管チューブステント

製品名：REGULUS（自社製品）



胆管が胆石や腫瘍などの圧迫によって狭くなった箇所にステントを留置し広げることで、胆汁の流れを改善して治療します。

保険償還価格

45,600円

*保険償還価格は2023年４月１日現在

開発生産拠点

✓ 国内４拠点、海外１拠点の体制でメーカー機能を支える

研究開発

研究開発統括部（埼玉県戸田市）
Medical Technology Park North Square



2018/4～

中核工場

戸田ファクトリー（埼玉県戸田市）
Medical Technology Park South Square



2012/1～

量産・滅菌工場

小山ファクトリー（栃木県小山市）



2014/10～

血管製品の開発・生産

市原ファクトリー（千葉県市原市）



2011/1～

海外工場

マレーシア工場（マレーシアペナン州）
JLL Malaysia Sdn.Bhd.



2020/6～

ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、当社の将来に関する見通し及び予想に基づいた将来予測です。特に、商品や製品の導入に関係する、治験および薬事承認に係る事項、また発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部
TEL:03-6711-5214
E-Mail:ir@jll.co.jp
URL:https://www.jll.co.jp